

リノベしてステキに暮らす!
いくの de リノベ

オリジナルデザインへのこだわり、
チャレンジ精神、
そして生野のまちへの熱い思い

北巽駅からほど近い勝山通沿いにある「リゲッタ生野本店」。白地に赤のロゴが映える暖簾が、まちゆく人の目を引く。お店を運営するのは株式会社リゲッタ。社長である高本泰朗さんは、20代半ばで父の経営する履物製造会社に入社。しかし間もなく、親元メーカーから契約打ち切りの知らせが。窮地に追い込まれた高本親子の決断は、自らの企画・デザインで、全ての責任を負うメーカーとしての再スタートだった。そして、泰朗さん35歳の時、2代目として会社を受け継いだ。

今年2月、本社のある生野でオープンしたこの店は、古い工場をリノベーションしたもの。色に変化した木の壁や天井、昔ながらの技法で作られたむき出しの鉄骨の

梁は、そのまま活かした。床には小上がり風に段差を設け、無垢の木を敷きつめた。靴を脱いでゆっくりとお気に入りの一足を探してもらえようと考えたものだ。

店内の内装の随所には、生野の職人たちの技が散りばめられていて、来る人を楽しませる。これは生まれ育った生野のまちのものづくりを盛り上げたいという高本さんの思いからだ。

2階にあった壁を一部取りはずすと、1階の店舗がよく見えた。自然と一体感が出たこの2階部分を、今後はワークショップやイベントなどに活用していきたいと、高本さんは目を輝かせる。

「このお店は70点の出来をめざした」と意外な言葉が。「面白いアイデアを形にしていける余地を残して、どんどん変化していくお店って、お客さんもスタッフも楽しいでしょ?」と、くたくのない笑顔を見せた。

若い社長率いるこの会社は、今や日本各地の他、アジアの国々やドバイなど海外にも販路を広げている。会社の進化とともに、この店舗の、今は新しい木材の色も、しっとり黒光りする年月を経た梁の色と、いつしか馴染んでいくのだろう。

「楽しく歩く人をふやす」という会社の理念を、確かにこの場所で感じることができる。



▲社長の高本泰朗さん



▲伝統の履物「下駄」をヒントに作られている。

★リゲッタ生野本店

〒544-0004 生野区巽北3-14-20

☎6752-7640

ブログでは写真を追加して紹介しています。



生野区在住で、古い家屋をリノベーションし、自分らしい暮らしをしている方を紹介してください。

連絡先 区企画総務課 ☎6715-9683

〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら

区地域まちづくり課 4F ☎6715-9734



▲「本社をそのまま持って行きたい」という社長の思いが詰まったこの店には、靴が出来上がる過程で使用される機械がいくつも置いてある。



▲開放感たっぷりの店内。経営する店舗では最大の広さだという。



▲見上げた高い天井は圧巻だ。

もっと知れば
もっと好き

60カ国以上の方が暮らすまち /

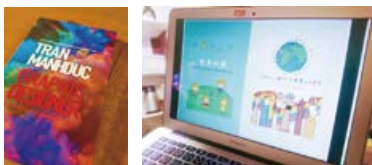


Tran Manh Duc さん
(チャン マンドウ)

ベトナム出身。デザイン専門学校に通う留学生。3年半前ベトナムのハノイの高校を卒業後すぐ日本へ。はじめての一人暮らし奮闘中。

デザイン勉強中

今、グラフィックデザインを勉強しています。もともと美術や芸術が好きで、高校生の時、将来何をしたいか考えていたら、日本へ留学するベトナムの若い人がたくさんいて、僕も行きたいって思ってきました。デザインの勉強は楽しくて、アルバイト先のメニューもデザインさせてもらいました。日本で作品が入賞したこともあるんですよ。学校を卒業したら大阪でデザインの仕事をしたいです。



〈チャンさんが手がけたデザイン〉

大阪のおばちゃん

大阪のおばちゃんがあったかい!日本に来た時は、ぜんぜん日本語がわからなくて。道に迷っていたらおばちゃんが「どこ行きたいん?連れてったるわ」って、行きたかった場所まで連れて行ってきて。ずっと笑って話しかけてくれて、ほとんどわからなかったけど、すごくうれしかったです。その人だけになって思ったけど、そんなおばちゃんがいっぱいいて。東京にも行ったことあるけど、人が多すぎるし、忙しいような人が多くてなんだか冷たく感じました。僕はやっぱり大阪のおばちゃんが好きです。

家族

今もハノイで暮らしています。父と母と妹の3人で、父はエンジニアで忙しい人だけど、音楽が大好きで、よく英語の歌が家で流れていました。その影響なのかな、僕もアメリカンポップスが好きになって。そしたら母がアコースティックギターを誕生日に買ってくれたんです。僕の宝物。いろんな英語の歌をアコースティックにアレンジして、いつも歌っています。

IKUNO×グローバルは生野区
ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみんな通信

検索



ものづくり企業は地域の誇り /

ピックアップ

生野ものづくり百景

丸福製紐株式会社

ゴム製品一筋!
オーダーの実現力と、
品質の良さで勝負!



▲自社ブランド「ホシ☆クジャク印」のゴムは、手芸屋さんなどで手に入る。

ヘアゴムやズボンのウエストゴムだけでなく、服飾品や生活用品で幅広く使われているゴム紐・ゴムテープ。製造を海外に移す企業も多い中、昭和9年の創業以来、丸福製紐株式会社は区内の自社工場、高品質なゴム製品を作り続けている。製紐機にセットされたボビンから糸を引き寄せ、複雑に回転させながらゴムに巻き付けることでゴム紐ができあがる。ゴムの太さや糸の素材、巻きつけ方を変えることで、強度や伸縮性の違う様々なバリエーションが実現可能なのだろう。

企業からのざっくりとしたイメージを、確実に形にして希望に応えられるのは、職人として長年培ってきた経験があるからこそ。確かな「ものづくり」の技術で、今日も製紐機と向き合う。

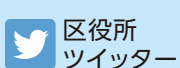


丸福製紐株式会社
〒544-0031 生野区鶴橋1-10-11
☎6716-8883

“きらりと光る”ものづくり企業を
たくさん紹介しています。

生野区 ものづくり百景

検索



区役所ブログ

チームいくみんな通信



区役所 やさしい日本語 Facebook



官民連携HP いくのぐらし

